

日本臨床麻酔学会第45回大会 ランチョンセミナー3 (LS3)

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.

信 頼 と 合 意

戮力協心 - "術後早期回復"を見据えた
"周術期多職種連携"のシナジー -

日 時

2025年 12月 4日 (木)
12:30 ~ 13:30

会 場

第 5 会場 (現地開催のみ)

ポートメッセなごや 第1展示館1F「展示ホール内」
〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭二丁目2番地

- 先着順
- 整理券なし

座 長

加藤 純悟 先生

国立大学法人 筑波大学 医学医療系麻酔科学分野 教授

「チームで進める重症患者の術後早期回復」

甲斐 慎一 先生

演 者 1

京都大学大学院医学研究科
侵襲反応制御医学講座・麻酔科学分野 講師

「リハビリテーションのエネルギーとシナジー
～豊かな人生の再構築のために～」

大島 洋平 先生

演 者 2

京都大学医学部附属病院
リハビリテーション部 理学療法士

共催：日本臨床麻酔学会第45回大会／丸石製薬株式会社

「チームで進める重症患者の術後早期回復」

術後早期回復（Enhanced Recovery After Surgery, ERAS）プロトコルの導入は、合併症の減少や入院期間の短縮に寄与することが報告されている。しかし、心臓外科や移植手術などの高侵襲手術や、呼吸・循環に高リスクを有する重症患者においては、プロトコルの適用のみでは十分ではなく、個々の病態に応じた柔軟な対応が求められる。特に、早期リハビリテーションを安全かつ効果的に行うためには、リスク評価と情報共有を基盤とした多職種連携が不可欠である。

当院集中治療部では重症患者を対象に、集中治療担当の麻酔科医・看護師・理学療法士が毎朝カンファレンスを行い、安全性を確認しつつ段階的に介入内容や強度を調整している。麻酔科医は患者状態の共有、リスク評価に基づく介入開始の判断、さらには鎮痛・鎮静管理を通じて、安全で有効なリハビリテーションの実施を支援している。

本講演では、自施設での取り組みを紹介し、重症患者における術後早期回復を推進する上で、多職種連携の重要性とその具体的な実践について概説する。

甲斐 慎一 先生

「リハビリテーションのエネルギーとシナジー ～豊かな人生の再構築のために～」

術後早期回復を目指すERAS（Enhanced Recovery After Surgery）の概念は、がん手術のみならず、心臓血管外科や臓器移植を含む高侵襲手術領域にも認識の拡大が進んでいる。その中で、周術期におけるリハビリテーションは、術前からの身体機能維持、術後の早期離床・活動促進を通じて、合併症の予防やQOLの向上に大きく寄与する。また、集中治療領域のガイドラインにおいては、多職種による包括的介入が強調されており、リハ専門職に加えて医師・看護師・栄養士・薬剤師などの各専門職が一丸となってリハビリテーションに参画し、患者を支援することが求められている。

本セミナーでは、「戮力協心」の精神のもと、「早期回復」とその先にある「豊かな人生の再構築」を実現するために必要な、リハビリテーションが持つエネルギー（力）とチーム医療によるシナジー（相乗効果）について、演者の所属施設における取り組みを紹介しながら解説していく。

大島 洋平 先生